

かめのり大学院留学アジア奨学生

月次報告レポート

(2019年4月)

●研究進捗—（介護）サービスについて

中国の介護保険をめぐる先行研究では、政策分析・提案や財政の確保および介護人材の教育・確保などを論じてきた。だが、現在試行している介護保険制度は主にサービス給付（現物給付）方式を採っている。そのため、介護サービスを取り上げて議論する必要性が認識されているものの、展開が見られないのが現状である。その原因としては、介護サービスはサービスの一種類として物理的な形をとることができなく、生産と消費が同時に行われ、確定した定義もないなどが挙げられる。したがって、介護サービスを論じる際、その定義および特徴を明確にする必要があると考えられる。

介護サービスの定義を検討する前に、「サービス」について触れておく。サービスの研究は1970年ごろから80年にかけて米国を中心に盛んになったが、当初は、モノ製品の販売を中心とする従来のマーケティングに対して、モノとは違う特徴を持った財としてサービスを捉えようとする傾向が強かった。サービスは物理的な形をとることができないから見えない・触れない（無形性 Intangibility）、サービスの品質に差異が生ずる（異質性 Heterogeneity）、生産と消費が同時に行われる（同時性 Inseparability）、貯めておくことができない（消滅性 Perishability）という特徴をもっている（木下 2011：126；後藤 2012：32-38）。それにくわえて、サービスの経済的価値は2つ以上の事・物・人の関係から生じる。そのため、消費者（利用者）と生産者の任意の組み合わせ、あるいは周囲の環境によってその質は絶えず変動し、同じ水準を保てるとは限らない（木下 2011：27）。

一方、介護とは何かを説明する際 OECD の定義がしばしば援用されている。その内容は、「介護とは長期にわたり心身の障害がある者に対して、適切な保健や社会サービスを総合的に提供するケアの体系である。ケアは、施設、在宅またはコミュニティで提供され、また、専門家・機関によるフォーマルなサービスや家族・友人によるインフォーマルなサービスを含む」ことである。この定義は、介護の対象者（利用者）は高齢者に限定せず、医療サービスも含んでいるため広く使われている。しかし、OECD の定義はサービス提供側の立場から整理し、「提供」が強く強調されたもので、利用者の立場から検討されたものが含まれていないことを指摘する。それは、利用者はたんにサービスを受けるだけでなく、サービスの生産・提供にも参与する（共同生産ないしコ・プロダクション）ことである。例として、利用者はどの事業者、どのようなサービスを利用するのを事前にコミュニケーションを通して決めていく（サービス内容の決定）ことが挙げられる。

今後は上述した検討を踏まえて「介護サービス」の定義と特徴を解析していく。

●生活状況

4月、新学期がスタートしました。それと同時に、私は博士課程の3年生になりました。しかしながら、自分の博士論文は完成するまでにはほど遠く、このままでは博士課程を修了することができないのではないかとこの危機感を抱いています。先月、授与式後現役奨励生同期の二人にその悩

みを打ち明けると彼女たちも同じ悩みを抱えていると聞きました。そこで、三人の分野は異なるけれども、5月から月一回の頻度でLINE（グループ名は「Go, 博論」）を通じて各自研究の進捗状況やこれからのスケジュールなどについて話し合い、お互いに励んで博論を書いていくことにしました。